江戸東京博物館
NEWS
EDO-TOKYO MUSEUM NEWS
江戸東京博物館ニュース
Vol.106
2019.10~12

特別展

大浮世絵展
歌麿、写楽、北斎、広重、国芳 夢の競演

特別展

士サムライ
天下太平を支えた人びと

CONTENTS

- 特集展示「永井荷風と江戸東京の風景」／常設展のみどころ 大型模型探索「新宿駅東口のヤミ市」
- 研究の散歩道　武蔵野図屏風の変容（メタモルフォーゼ）

特別展

「士サムライ ―天下太平を支えた人びと―」

9月14日(土)～11月4日(月・休)
1階 特別展示室

＊会期中に展示替えがあります。

日本をイメージするキーワードとして国内外を問わず多く用いられる〝サムライ〟。しかし、その言葉から何を連想するのかは人によって様々です。武家・武士・侍・浪人など、サムライが表す人びとについて、歴史的な実態をふまえてこの言葉を使用しているとは言いがたいのではないでしょうか。そこで本展では、現代のサムライイメージの原点である江戸時代のサムライ＝〝士〟の暮らしや仕事のありさまをご覧いただき、サムライのイメージを見直してみたいと思います。

本展覧会では、いわゆる武士道書に登場するような、抽象的なサムライの姿を紹介するにはとどまりません。徳川将軍の居所として、当時、世界有数の大都市であった江戸で、サムライがいかに活動していたのか、絵画作品や古写真から浮き彫りにしていきます。また、有名無名を問わず、サムライの家に伝来した所用品の数々から、江戸時代の人びとが見聞きし親しんでいた生のサムライの生活をご覧いただきます。

見よこの凛としたたたずまい これぞサムライ！

薩摩藩の役人
フェリーチェ・ベアト撮影　1863～1870年頃
個人蔵

国元離れて江戸勤番 たまには気のおけない仲間と酒の語らい

久留米藩士江戸勤番長屋絵巻　酒宴の図
三谷勝波筆／戸田熊次郎序　明治時代
資料番号 86200129
［展示期間：10月6日まで。以降は複製を展示］

見どころ1 江戸に暮らしたサムライ その素顔にせまる

風俗画や古写真、古記録、当時の道具類など、約２００点の多彩な資料を駆使し、大都市江戸に生きたサムライの日常の姿を浮き彫りにします。

見どころ2 いざ出馬！　とはいっても戦ではなく災害時の緊急出動

「火事と喧嘩は江戸の花」の言葉の通り、火事が頻繁に発生した江戸では、サムライたちが火消しの統率にあたりました。火事装束などによって彼らの災害時の活動に迫ります。

見どころ3 サムライの息づかいを伝える所用品の数々 なかにはあの著名人のものも

サムライの家に伝来した道具や古文書から日常生活や非常時の振る舞いなどを明らかにします。

見どころ4 鉄砲に注目 サムライの備えは刀剣ばかりではなかった

太平の世となってからもサムライたちは日々、鉄砲の鍛錬を怠らなかったことが知られています。武人としてのサムライの側面を刀剣以外の武具、特に鉄砲に注目してご覧いただきます。

（学芸員　田原昇）

馬上で射撃できる火縄銃

火縄式馬上銃（ばじょうじゅう）　鉄砲玉入（てっぽうだまいれ）并（ならびに）鉄砲玉（てっぽうだま）・口薬入（くちぐすりいれ）
幕末　資料番号 91220611～14

information

開館時間：9:30～17:30（土曜日は19:30まで）※ 入館は閉館の30分前まで
会場：　1階 特別展示室
休館日：　月曜日（ただし9月23日、10月14日、11月4日は開館）、9月24日（火）、10月15日（火）

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、朝日新聞社

〈チケット販売〉
江戸東京博物館、イープラス（特別展・常設展共通券の販売は江戸東京博物館のみ）

観覧料（税込）	特別展専用券	特別展・常設展共通券
一般	1,100円（880円）	1,360円（1,090円）
大学生・専門学校生	880円（700円）	1,090円（870円）
中学生（都外）・高校生・65歳以上	550円（440円）	680円（550円）
小学生・中学生（都内）	550円（440円）	なし

※（　）内は20名以上の団体料金。
※ 次の場合は観覧料が無料です。未就学児童。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方（２名まで）。
※ 小学生と都内在住・在学中の中学生は、常設展示室観覧料が無料のため、共通券はありません。
※ シルバーデー（10月16日）は、65歳以上の方は特別展観覧料が無料です。年齢を証明できるものをお持ちください。
※ 会期中は当日券のみを販売。

特別展

「大浮世絵展 ―歌麿、写楽、北斎、広重、国芳 夢の競演」

11月19日(火)～2020年1月19日(日)
1階 特別展示室

＊会期中に展示替えがあります。

当館では、2014年(平成26)1月に開館20周年記念特別展「大浮世絵展」を開催し、浮世絵の通史における優品を紹介しました。その第二弾となる本展では、歌麿、写楽、北斎、広重、国芳という5人の人気浮世絵師に注目し、その錦絵の代表作を展示します。

第一章で紹介する喜多川歌麿(1753頃～1806)は、1793年(寛政5)頃に大首絵を打ち出したことにより、美人画絵師としての地位を確立しました。今回、最も華やかな活躍を遂げた寛政期の作品を数多くご覧いただきます。

第二章は、東洲斎写楽(生没年不詳)の役者絵です。写楽は、1794年(寛政6)5月に役者の大首絵で鮮烈なデビューを果たし、役者の顔の特徴をデフォルメして描いたことや、写楽自身の謎の人物像に注目が集まります。本展は、写楽の大首絵が一堂に揃う見逃せないラインナップとなっています。

第三章では、世界でも著名な葛飾北斎(1760～1849)が描く風景画と花鳥画を紹介します。北斎は、古稀を過ぎてから錦絵の揃物を多く手掛け、特に「冨嶽三十六景」シリーズで新たな風景画の世界を切り開きました。本展では、「冨嶽」をはじめとする錦絵の揃物を紹介します。

第四章は、「名所江戸百景」などのシリーズで人気の歌川広重(1797～1858)の風景画と花鳥画です。広重は、「東海道五拾三次」の大ヒットにより、風景画の名手として名を馳せました。本展では、風景画シリーズと、四季折々の情緒あふれる花鳥画を展示します。

そして最終章にあたる第五章は、歌川国芳(1797～1861)の武者絵と戯画を紹介します。3枚続きの大画面を活かしたダイナミックな構図や独特な色使いは、それまでの浮世絵師になかったものです。庶民に大人気となった娯楽性を追求した作品群をお楽しみ下さい。

本展は、5人の絵師の得意ジャンルに絞った内容で、「誰もが知っており、そして誰もが見たい」浮世絵展です。各章が単独の展覧会としても十分見応えがあり、まさに通常の5倍以上のお得感ある展覧会とも言えるでしょう。海外美術館の所蔵品を中心に、選ばれた優品が勢揃いします。

(学芸員　小山周子)

Royal Museums of Art and History, Brussels

東洲斎写楽「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」
1794年(寛政6)　ベルギー王立美術歴史博物館蔵
【11月19日(火)～12月8日(日)展示予定】
※展示期間については、変更となる場合があります。

Photo: Minneapolis Institute of Art

歌川広重「東海道五拾三次之内　蒲原 夜之雪」
1834～36年(天保5～7)頃　ミネアポリス美術館蔵
【11月19日(火)～12月15日(日)展示予定】
※展示期間については、変更となる場合があります。

information

開館時間：9:30～17:30(土曜日は19:30まで)※入館は閉館の30分前まで
会場：　1階 特別展示室
休館日：　月曜日(ただし2020年1月13日は開館)、
12月28日(土)～2020年1月1日(水)

観覧料(税込)	特別展専用券	特別展・常設展共通券	特別展前売券
一般	1,400円(1,120円)	1,600円(1,280円)	1,200円
大学生・専門学校生	1,120円(890円)	1,280円(1,020円)	920円
中学生(都外)・高校生・65歳以上	700円(560円)	800円(640円)	500円
小学生・中学生(都内)	700円(560円)	なし	500円

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、国際浮世絵学会、読売新聞社

〈チケット販売〉
江戸東京博物館、主要プレイガイド、コンビニ店頭など(特別展・常設展共通券の販売は江戸東京博物館のみ)

※(　)内は20名以上の団体料金。
※ 次の場合は観覧料が無料です。未就学児童。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。
※ 小学生と都内在住・在学中の中学生は、常設展示室観覧料が無料のため、共通券はありません。
※ シルバーデー(11月20日、12月18日、2020年1月15日)は、65歳以上の方は特別展観覧料が無料です。年齢を証明できるものをご提示ください。なお当日は混雑が予想されます。
※ 前売券は、11月18日(月)まで販売。11月19日(火)からは当日料金で販売。
※ 会期中は当日券のみを販売。

特集展示

「永井荷風と江戸東京の風景」

11月6日(水)～2020年1月5日(日)
休館日　毎週月曜日、12月28日(土)～1月1日(水)
常設展示室
5階「市民文化と娯楽コーナー」

2019年は、文豪・永井荷風の生誕140年、没後60年にあたります。節目となる本年、常設展示室で特集展示を行います。

この展示では、江戸文化を愛した荷風が、『江戸藝術論』で考証した狂歌絵本の名所や、随筆『日和下駄』に登場する荷風好みの風景版画を紹介します。また、日記『断腸亭日乗』に記録のある、江戸時代から昭和期の絵画や絵葉書をとおして、荷風がとらえた風景と作品に描かれた都市の様相を明らかにします。

（学芸員　湯川説子）

絵葉書「尾張町交叉点附近」
ノエル＝ヌエット／画　1934年(昭和9)　資料番号 11002559

関連事業：えどはくカルチャー
永井荷風生誕140年・没後60年記念連続講座(全5回)
※詳細は「えどはくカルチャー」チラシまたは当館ホームページをご覧ください。

常設展のみどころ

大型模型探索「新宿駅東口のヤミ市」

常設展示室の東京ゾーン「よみがえる東京」コーナーでは、戦後の新宿駅東口に展開されたヤミ市の模型を展示しています。開館時、模型製作にあたり、立教大学社会学部の松平誠教授(当時)率いる調査団に担当学芸員も参加して、3年間37回に及ぶ聞き取り調査、そして地図、写真、動画などの調査を行いました。その結果、新宿駅東口に複数グループのヤミ市があったこと、ヤミ市には昼の需要(日用品、食料品、軽食)と夜の需要(飲食、娯楽)があり、エリアがおおよそ分かれていたことなどがわかりました。

写真1は120分の1の縮尺で、①新宿通り沿いにいち早く展開したマーケット、②新宿駅前の屋台群、③入口のアーチが印象的な南側のマーケットの分布を上空からのマクロの視点でながめることができます。わかりやすくするためにヤミ市以外の建物はグレーに塗っています。写真2は10分の1の縮尺で、松平教授の調査にもとづいた演出によって、新宿の夜のヤミ市の雰囲気を体感できる模型となっています。ぜひ、じっくり見比べてください。調査の詳細は『東京都江戸東京博物館調査報告書 第2集 ヤミ市模型の調査と展示 常設展示制作に伴う調査報告2(大型模型2)』(当館／編　1996年〈平成8〉)に掲載しています。当館7階図書室で閲覧できます。（学芸員　松井かおる）

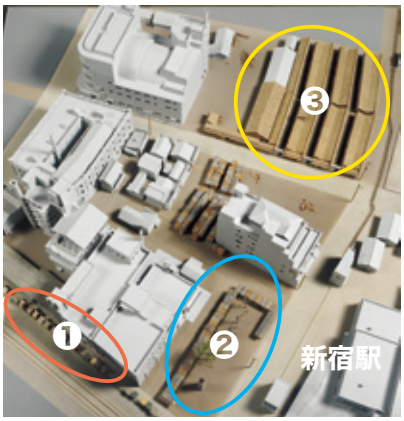


写真1　新宿駅東口のヤミ市模型
復元年代：1948年(昭和23)前半　縮尺：1/120

写真2　新宿ー夜のヤミ市ー　復元年代：1947年(昭和22)秋　縮尺：1/10

特集展示

「FUROSHIKI TOKYO」展を開催しました

風呂敷ワークショップの様子

唐草模様の風呂敷でのインスタレーション

２０１８年秋、東京都はパリ市庁舎前広場に大きな風呂敷包みのパビリオンを設置し、風呂敷の展示やインスタレーション、ワークショップを通して風呂敷の魅力を世界に発信しました。その報告展として、江戸東京博物館と分館の江戸東京たてもの園では、パリで展示された31人のアーティスト等によるオリジナル風呂敷を全点公開する特集展示「ＦＵＲＯＳＨＩＫＩ ＴＯＫＹＯ」展を開催しました（本館：7月23日～8月25日、分館：7月23日～9月29日）。

会期中、常設展示室5階「助六の舞台」では、パリ市庁舎壁面の石像を彩ったものと同じ唐草模様の風呂敷でインスタレーションを行いました。いつもと少し異なる助六の姿に驚かれた方もいらしたかもしれません。

また、本館・分館ともワークショップを実施し、繰り返し使え、便利な風呂敷で箱や瓶など様々なものを包む体験をしていただきました。「意外に簡単」「暮らしの中で使ってみようと思う」との感想が印象的で、より身近に親しんでいただく機会となりました。

当館は、今後も多彩で魅力的な博物館活動を展開してまいります。どうぞご期待ください。

国際交流

グローバリゼーションと江戸東京博物館

グローバリゼーションといわれる現代は、「人・物・情報」が時間と空間をたやすく超えて地球規模で行き交います。なかでも情報は瞬時にして世界中に知れわたる時代となりました。しかし、グローバリゼーションによる文化の均質化が敷衍（ふえん）し、世界を席捲（せっけん）するようになると、それぞれの地域で大切に育まれてきた固有の「ローカル」な文化は、「グローバル」という名の巨大な波に呑まれ、かけがえのない本来の文化は湮滅（いんめつ）してしまうのではないか、果ては文化間に軋轢（あつれき）が生じるのではないか、といった危惧が生じます。異文化交流が盛んになると、相互に触発され、活性化し、発展へと広がる反面、それまで培ってきた独自の文化との摩擦や対立が起きる場合もあります。

ある文化が他の文化にどのように影響されたのか、あるいは影響したのか、その過程をつまびらかに自覚し、みずからの意識下に置いて明確にすることこそが重要です。つまり、異文化交流にともなう「変容のプロセス」を知ることです。そして適切に呈示する。それは博物館の役割の一つともいえ、新たな文化の創造へとつながるエネルギーが醸成されていきます。「江戸東京の歴史と文化」を発信することによって、異文化間の友好と相互理解に少しでも貢献したい。私たちはそんな博物館のあり方を追求していきたいと考えています――9月3日、「国際博物館会議（ＩＣＯＭ）京都大会」において、世界の博物館人へ向けこのような主旨の話をしてきました。

（副館長　小林淳一）

国際博物館会議 京都大会
ICOM KYOTO 2019

武蔵野図屏風の変容（メタモルフォーゼ）

学芸員　春木晶子・文

武蔵野は月の入るべき山もなし
草より出でて草にこそ入れ
詠み人知らず

古代以来の名所、東国武蔵野。その茫漠たる荒野のイメージは、文学や芸能、多様な美術工芸品にあらわされてきた。なかでも「武蔵野図屏風」は著名である。大画面を覆う薄野原、そこに沈む大きな満月、大胆な構図を思い起こす人は少なくないだろう。

しかし、「武蔵野図屏風」と呼ばれる作品が少なくとも20件あり、多様な図が伝わることは、あまり知られていない。いずれも江戸時代の制作と考えられるが、制作年や作者の詳細は不明である。

例えば当館も、タイプの違う二件の「武蔵野図屏風」を所蔵している。薄野原と月、そして富士山を描く一件（写真1）に対し、富士を描かず、上部を金雲、下部を薄野原と秋草が覆い、そこに月が沈む一件（写真2）は、知名度が低い。しかしいずれも「武蔵野図屏風」である。

後者と同様に山を描かず、背の低い屏風が他にも知られ、これらが武蔵野図屏風の初期の作例だと推測される。恐らくこうした図が、江戸時代に流行した富士山を描く絵画と結びつき、薄野原と満月、富士を組み合わせた武蔵野図屏風が生まれたのだろう。

富士を描く武蔵野図屏風はさらに、山が富士のみのもの（四作例）、富士のほかに複数の山を描くもの（二作例）、左端の富士に対し右端に別の山を描くもの（二作例）、の三つに分けられる。

当館所蔵の、よく知られる方の一件は、この三つ目にあたる。これが武蔵野図屏風の最終形態である、というのがわたしの仮説だ。右端の山は恐らく、筑波山であろう。これは、江戸の人々に定着した、「東の筑波と西の富士」という対概念を踏まえて生み出された図だと考える。富士と筑波を左右の対で描く絵は、文政年間（1818～1830）頃に定着したと見え、その後でなければ、このニュータイプは誕生し得なかったはずだ。

武蔵野図屏風は、実際の武蔵野の景観を映すものではない。代わりにそれは、写真や文字では必ずしも記録し得ない、人々の思想や観念を映し、今日に伝えてくれる。

＊本稿の詳細は、春木晶子「「武蔵野図屏風」図様の成立と展開――江戸東京博物館所蔵甲本を中心に――」『東京都江戸東京博物館紀要』第九号（二〇一九）をご参照ください。7階図書室で閲覧いただけます。

写真1
武蔵野図屏風　江戸時代
資料番号 87201313・87201314
★この絵をデザインした2種類のオリジナルミュージアムグッズ（「風呂敷deスカーフ」と「スカーフ」）を当館ミュージアムショップで販売中。

写真2
武蔵野図屏風　江戸時代
資料番号 91222003・91222004

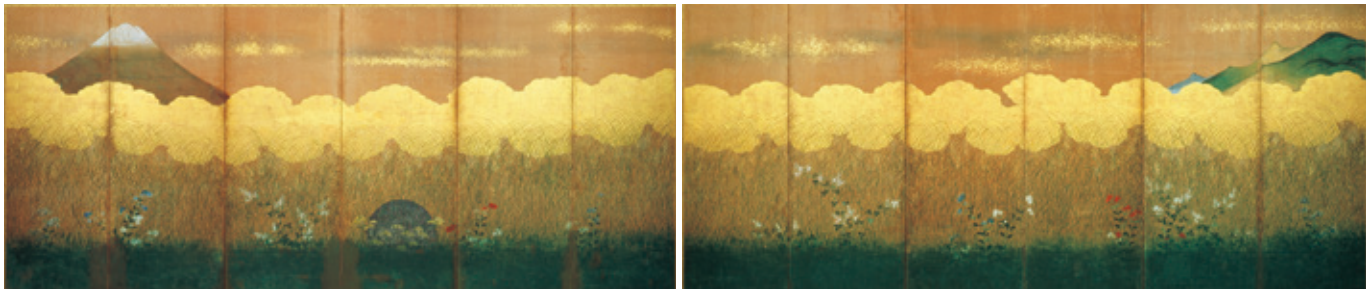


写真1

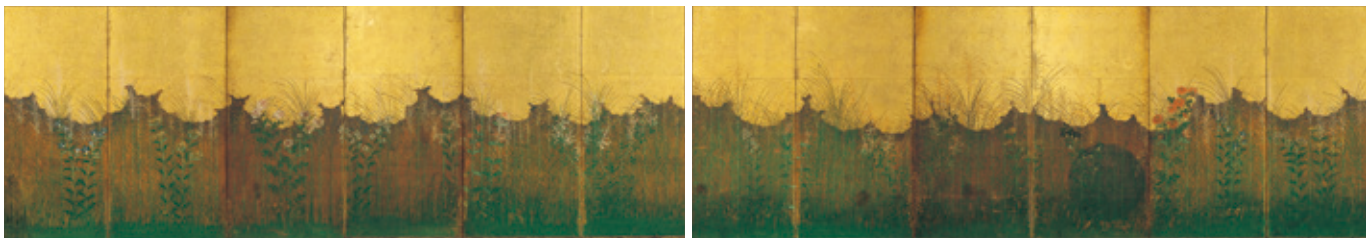


写真2

図書室から
お知らせ

図書室で国立国会図書館のデジタル資料を見ることができます！

「国立国会図書館デジタルコレクション」（http://dl.ndl.go.jp/）をご存知ですか？　国立国会図書館で収集・保存している資料を、インターネットを通してデジタル画像で閲覧することができるサービスです。しかし、この中には「図書館送信参加館（国会図書館に利用許可を得た館）内の指定端末でログインした場合のみ」閲覧が可能であり、一般には公開していない貴重な資料もあります。

当図書室は今年度から「図書館送信参加館」となり、当室では所蔵していないこれらの貴重資料も閲覧可能になりました。これにより調べ物の際に利用できる参考資料が大幅に増えたことになります。ぜひご利用ください。

利用申込時間は9時30分～11時30分、13時～16時30分。閲覧は無料ですが複写料金は1枚白黒30円、カラー100円です（A4サイズのみ）。利用するためには当日のみ有効の「利用者登録」が必要ですので、住所・氏名・年齢等を確認できる身分証明書をお持ちください。

※詳しい利用方法はホームページ又は電話でご確認ください。

写真1　「デジタルコレクション」トップページ

写真2　「デジタルコレクション」利用イメージ

キュレーターズ・チョイス
Vol. 5

江戸博コレクションから

夏目漱石「明暗」反故草稿

「反故草稿」とは、推敲の過程で不要になった原稿のことをいいます。当館は夏目漱石「明暗」の反故草稿431枚を所蔵しています。「明暗」は1916年（大正5）5月26日から12月14日まで「東京朝日新聞」で連載されました。漱石は同年12月9日に死去しましたが、すでに執筆してあった分で連載は続き、結局12月14日に第188回の掲載をもって「明暗」は未完のまま終了しました。

写真は、連載第27回の冒頭の反故草稿です。当館で確認できるだけでも4枚の原稿用紙を使って、繰り返し書き直されています。「坊ちゃん」などの初期作品では、一気呵成に書き上げたといいますが、「明暗」の草稿からは、一語一語を慎重に吟味し、表現に苦心する漱石の姿がうかがえます。また、裏面に透けて見えるのは、反故草稿を利用した手習いの跡です。晩年の漱石は、午前中に小説の執筆をし、午後は漢詩や書など趣味の世界に遊びました。緊張を強いられる創作の時間と趣味の時間とを併せ持つことで、精神のバランスを取っていたといいます。

残された反故草稿は、名作の創作過程だけではなく、漱石晩年の生活ぶりをも伝えてくれます。

（学芸員　橋本由起子）

夏目漱石「明暗」反故草稿　夏目漱石筆　1916年（大正5）　資料番号 02303491

江戸東京たてもの園

〒184-0005 小金井市桜町3-7-1（都立小金井公園内）
TEL 042-388-3300　https://www.tatemonoen.jp

江戸東京博物館分館
江戸東京たてもの園から

そよ風

特別展「小出邸と堀口捨己（ほりぐちすてみ）」

会期：10月16日(水)～2020年2月16日(日)

2019年3月、東京都の文化財に指定された「小出邸」は、建築家・堀口捨己（1895～1984）が実質的にはじめて手掛けた住宅です。この建物は施主の小出氏とその妻の隠居所として1925年（大正14）に現在の文京区西片に建てられました。

茶室研究の第一人者で、のちに和風建築の大家として知られる堀口は、東京帝国大学在学時に他5人のメンバーとともに「分離派建築会」を結成し、過去の建築様式にとらわれない新しい表現を模索・追究する活動に邁進しました。卒業後には、新たな知識を求めて欧州視察に赴き、特にオランダの建築に関心を寄せました。そして帰国した堀口に設計依頼が舞い込み、小出邸は建設されました。

本展では、分離派の数少ない実作の1つである小出邸の魅力を紹介するとともに、小出邸が堀口の最初期の作品であることから彼の青年期の活動や作品について取り上げます。

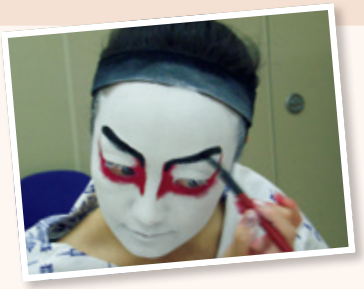
小出邸

催し物のご案内　秋期ふれあい体験教室

●講師：ふれあいボランティア　●いずれも参加無料（ただし常設展示室は観覧券が必要）
●変更・中止の場合は当館ホームページでお知らせいたします。

事前応募制教室

●歌舞伎の化粧をしてみよう
日時：11月9日（土）
13:30～15:30
場所：1階会議室
対象：高校生以上
定員：12名
応募締切：10月25日（金）



●神田上水関口大洗堰跡と付近の大名屋敷庭園を訪ねる
日時：11月17日（日）13:00～16:00　＊荒天時は11月24日（日）に順延
対象：一般　定員：20名
応募締切：11月2日（土）

お申し込み方法
往復はがき（62円×2=124円、10月以降は63円×2=126円）にて下記①～⑤を明記の上、ボランティア事務局までお申し込みください（締切日消印有効）
①希望講座名　②住所　③氏名（ふりがな／2名様まで）　④年齢　⑤電話番号
〒130-0015　墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館　ボランティア事務局　ふれあい体験教室係

当日受付教室　開催場所：常設展示室5階ミュージアム・ラボ［10月6日（日）を除く］

●三越双六で遊ぼう！
日時：10月6日（日）①13:30～13:50　②13:50～14:10　③14:10～14:30
（各回開始5分前に会場前で受付開始）
場所：5階　常設展示室
東京ゾーンT6モダン東京コーナー
対象：3歳以上
定員：各回5～6名

●ときめきキモノ体験
日時：10月27日（日）、11月24日（日）
各日：10:30～12:00（受付終了11:30）
対象：3歳以上　定員：30名程度

●和算パズル
日時：11月9日（土）13:00～15:30（受付終了15:00）
対象：小学4年生以上

●反古紙で折る小物 ― 江戸のエコロジーを見習おう ―
日時：11月9日（土）13:00～15:30（受付終了15:00）
対象：小学生以上

●ぼち袋を摺ろう
日時：12月7日（土）13:00～15:00
（12:50より会場前で整理券配布）
対象：小学生以上　定員：30名

●「凧」づくりに参加してみませんか
日時：12月21日（土）13:30～15:00
※他イベントと時間が重なる場合は時間を変更する場合もあります
対象：5歳以上（ただし小学3年生までは大人と一緒に）　定員：30名

ミュージアムトーク

●常設展示室のみどころを学芸員が解説します。　●日時：毎週金曜日16:00から
●常設展示室5階の日本橋下までお集りください。所要時間は約30分です。

町の暮らし：10月4日・11日
よみがえる東京：10月18日、11月8日
企画展「18世紀ソウルの日常」：10月25日、11月1日
芝居と遊里：11月15日・29日
特集展示「永井荷風と江戸東京の風景」：11月22日、12月6日
江戸から東京へ：12月13日・20日

江戸東京博物館 NEWS Vol.106

お問い合わせ　03-3626-9974（代表）
ホームページ　https://www.edo-tokyo-museum.or.jp
来館のご案内　JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分
都営地下鉄大江戸線「両国駅（江戸東京博物館前）」A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前（江戸東京博物館前）」下車、徒歩3分

発行日　2019年9月20日（金）
編集・発行　公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
制作・印刷　株式会社D_CODE

表紙解説

「高島おひさ」 喜多川歌麿／画
1793年（寛政5）頃
資料番号 16200004
特別展「大浮世絵展」で展示
【展示期間：2019年11月19日（火）～12月15日（日）】
おひさは、両国米沢町二丁目の煎餅屋の娘で、両国の水茶屋での給仕姿が評判となった。「難波屋おきた」と並ぶ美人として、歌麿の作品に多く取り上げられ、本図からも明るくはつらつとした様子が伝わる。当時17歳の姿が描かれる。（学芸員 小山周子）